

一九五二

海軍

主事



淨寫  
校合



發付  
一月廿日

年月日

主務

立案者

大臣

次官



軍務局長

第三課長

課僚



經理局長



指令案

電信

軍艦宮古コンネクチングロッド製造ヲ横須賀鎮守府

ニ依テノ料認許ス

明治三十九年一月二十日 海軍大臣

是鎮守司令長官

1776

西郷海軍大臣

東郷平賀

友

局

第...

十八

事務

...

局

...

局

...

局

...

Handwritten Japanese text in a grid format, likely a cipher or codebook. The text is arranged in approximately 10 rows and 10 columns.

軍艦宮古コレ...

スル...

1778

1777

軍務部  
第 五 十 一 號

一月 十一 日

二月 十一 日

三月 十一 日

四月 十一 日

五月 十一 日

六月 十一 日

七月 十一 日

八月 十一 日

九月 十一 日

十月 十一 日

十一月 十一 日

十二月 十一 日

Handwritten Japanese text in a dense, cursive style, likely a memorandum or report. The text is arranged in vertical columns, starting from the right side of the page. The characters are highly stylized and difficult to read precisely without context.

軍艦宮古コンクリート製造工事ハ之ニ滴

スル流標 据付前ニテ着手出来ガルニ付横田英鎧守

守ハ此托致シ被同為ハ協議済取立御可アリク

之

百子七

英鎧守  
其ノ旨也

1778

字

本書、軍服明石製造書類ニアリ

軍服明石并官古製造書類ニアリ  
求書別紙一通調悉可然哉此更仰

高裁取也

三十七年六月廿七日

官房第二之三九号

海軍

1779

次官  
供贖

軍務局長



吳鎮第四〇二二號

第三課

第一課

第二課

經理局長

軍艦官古進進期遷延之義報告

軍艦官古進進水之義公去八二七年五月二十六日起正台三ヶ月  
即本年十月之豫定ニ付処目下築造中本府造私部第  
二取渠按二期ニ未定ニ付築止本艦之事ハ陸上ニ可出未  
得大ニモノヲ執行セシメ付其進水期ハ明年十月迄  
遷延可致ル奈此旨報告仕候也

明治二十九年十月廿八日

吳鎮守府司令官長官田中時并上長



海軍大臣候對西鄉從道殿

主事



淨馬

發付内



校合



九廿



年月日

主務

立案者

大臣



次官

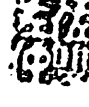


軍務局長

軍務課長



造船課長



課長

一書海自

訓令案

来月十月廿七日軍艦官先准水武執行ニ付感

仁親王殿下ヲ被差遣候旨

御所迄相成リ奉此旨心得一也

明治三十四年九月二十七日

海軍大臣

官房録三六〇八番三

海

官

1781



大臣

次官

人事課

軍務局



官房第三六号

内務省  
人事課  
丙第三九六號

造幣課  
軍事課

来儿十月廿七日頃、吳軍港に於て軍艦之古進水式執行に付、威仁親王殿下ヲ同所、被差遣候者

御沙汰相成候條、此般申進候也

明治三十四年九月二十日

官内大臣 伯耆守 方久 元

海軍大臣 侯爵 西郷 從道 殿

前日付波之之上来之旨、相成候





此書西の板、周の字、信、幸、景、武、の、國、の、日、  
海、軍

十月二十日

依仁親王殿下是也

依仁親王殿下是也

依仁親王殿下是也

十月五日

依仁親王殿下是也

依仁親王殿下是也

依仁親王殿下是也

依仁親王殿下是也

依仁親王殿下是也

1785

非

軍務局長

造次部長

電信局

宮古進水十月廿七日  
又当日親王殿下所  
内定由  
三十四年九月廿二日  
局長

皇太子殿下御方

1786



海軍

軍務局長



造船部長



電信系

昨日電報にて宮内建水日限地三島

電名アリ文し

三十年九月廿日

局長

島崎司馬

1788

電務局長

電信彙



官古進水十一月十日、大臣其他、差支アルニ付  
一 廟繰上ノ十月廿四日、出、未廿んヤ

三十年九月廿日

局長

電信局長

海軍

1789

軍務局長

造船課

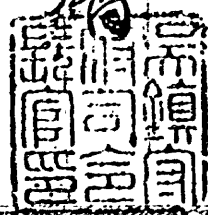
明治三十年九月十九日

軍艦官古進水之儀具申

軍艦官古船体部新造工事進水之儀具申  
 慶應三年十月十日以前進水之儀具申  
 船造修試験検査規則第三十四條に據り此者  
 具申仕度也

明治三十年九月十九日

其禮府司令長官 栗野 井上 良 馨



海軍大臣 栗野 井上 良 馨

海軍





管内大臣見

全四

事職官等車儿十月二十七日吳等議決  
三進水式執行ノ事ニ決定相成候條  
万御旨共段申進候也  
以以三司九月廿日 次書

侍從外右大臣

軍令部長 (印)

第一局 (印)

(印)

(印)

主事

(印)

(印)

浄寫

一校令

發行

九月廿

年月日

主務

立案者

大臣 藤次官 (印)

軍務局長 (印)

人事課長 (印)

經理局 (印)

陸軍部 陸軍局長 (印)

前田 (印)

課係 (印)

第一課長 (印)

務 (印)

訓令案

第三課長 (印)

軍艦宮古来ル十月二十七日進水也とのうんへくハ案

此旨心得一也

明治三十四年九月廿日

海軍大臣

長坂寺村司令長官

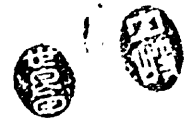
軍令第三六一四三三

海

軍

1793

主事



淨馬

校合

九月廿五日  
發日校合事務

年月日

主務

立案者

大臣



次官



軍務局長

造船課長  
軍務課長

課僚

先裁案

明治三十年九月日

軍艦進水ノ件

九月二十四日  
裁可

海軍大臣

左ノ通奉仰先裁候

官房第三六四号

海

軍

1794

洋  
軍

吳鎮守府造船部に於て建造中ノ軍艦客古  
船體將ニ成ルヲ告ク依テ来月二十七日進  
水セヨク度

1795





軍務局

人事課

軍令部

馬場

機關課

軍務課

新

海軍

海軍

海軍

海軍

海軍

艦隊六艘 共十三隻 午前十時舞鶴港  
出陣 島前 釜山 三十九日午前  
出陣 三十三隻 釜山 三十一日午前  
出陣 三十三隻 釜山 三十一日午前

十一月廿五日 海軍省 海軍大臣 齋藤實

海軍省 海軍大臣 齋藤實

七

1798

主事



淨寫

校合

發付府

十月廿日

年 月 日

主務

立案者

大臣



次官



人事課長

主任課僚(中)

回着案

本月二十七日、皇軍港に於て軍機古  
建多武、頼りて、節一、威仁、祝、金、津、向  
海軍大臣、廻り、出、原、部、官、印

海

軍



海軍

駐在官より海軍省へ送る文書（外務省）

三十二年十一月九日

島田久良夫

1800

人事課



四〇二五

本月廿七日吳軍港に於て軍艦宮古進水  
 式執行之節威仁親王殿下同所、被差  
 遣候二付常備艦隊參謀海軍大尉向  
 井彌一、随行命之度候間貴省御差支有云  
 之旨活報に成度此般及以照レ云候也  
 明治三十九年十月十九日

宮内大臣伯爵土方久元

海軍大臣侯爵西郷從道殿



款項目

豫算決算額 前年度繰上金

異

目

動員豫算現額 支出現計 原川

山本事務局長

井上事務局長

友

兵器課 前

九

供

134-3  
10-1  
3-4  
10-4  
10-4

3-1  
8-5  
10-2  
10-2  
4-2  
10-1  
10-1  
10-1  
10-1  
10-1

軍令部

山本事務局長

山本事務局長  
井上事務局長

海軍

野村胡堂

逓信局長

電信局長

二十七日宮古進水、時間電報アリ

三十年十月十四日 局長

是時司令官

1804

政原記

上事  
津馬  
校合  
十月廿五日

年月日 主務

立案者

大臣  
次官

人事課長  
主任課僚

經理局長  
第二課長

訓令案

案二十七百兵軍港ニ於テ 軍務官古進水  
武學ノ一系列スルニ

昭和三年十月廿五日 大旨

軍務局長

者宛

1805  
1806

本件ニ要  
算残額  
置也  
十月廿五日

74 歴代 記 〇

二案者

赤條 (中内)



水邊古

記

1805  
1806



本件三要件旅費、軍務局配付豫  
算残額三百余円、内ニテ支糸シ

置

十月廿一日

經理局

軍務与進取証書

海

軍

1807







人事課

軍務局

次官

供覽

武第一五五號

軍事課

出羽

侍從武官附

海軍屬青木祐三

右侍從武官齋藤孝至吳及佐世保鎮守

府、被差遣候ニ付隨行ヲ命ジ候間

此段及御通知候也

明治三十年十月廿日

侍從武官

侍從武官之印

海軍省

御中

管房第4020号

1810



人

軍務局

次官

供覽

官房第 2010

(中)

武第一卷四號

軍事課

(出)

(印)

御用

侍從武官 齋藤孝至

右軍艦官古来ル二十七日進水式奉行

付吳鎮守府へ其ノ情况視察ノ為ノ佐世

保鎮守府へ被差遣候條此段及御通

知矣也

明治三十年十月二十日

侍從武官長 男爵 岡澤

精侍從武官長印

海軍大臣 侯爵 西郷 從道 殿



主事



海軍

校合

第11



十月五日以前に於ては



年月日

主務

立案者

大臣



次官

軍務局長



造船課長



課長

進水命令書案

明治二十七年五月軍艦宮古ノ構造ヲ始メ今ヤ艦體成ルリ告ク依テ茲之ヲ進水セシム

明治三十年十月二十七日

官房第三九四号

海

軍

1814

洋  
單

参考

宮古起工

(船省省材務局)

二十七年五月廿六日

兵鎮第一四一〇号ノニ報告

1815



軍部  
信  
お九  
打  
九  
五  
十



友  
長

甲  
長  
長

進  
水  
今  
所  
ダ

レ  
レ  
ス  
イ  
イ  
ス  
レ  
ダ

十

井  
長  
長  
長

軍部  
信  
前  
九  
時  
長  
長

十  
年  
前  
九  
時  
長  
長

第 11 号

1816



船尾浮橋ノ後

宮古進水式終りたり  
一時進行ヲ中止シ凡ソ四十分間ハカリ  
静止シタルモ汽船七艘ヲ以テ無事  
下シタリ

十月二十七日午前十時三十分  
吳山本軍務局長

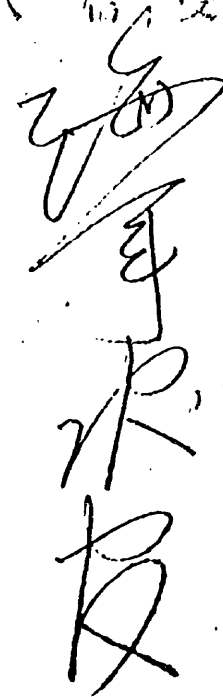
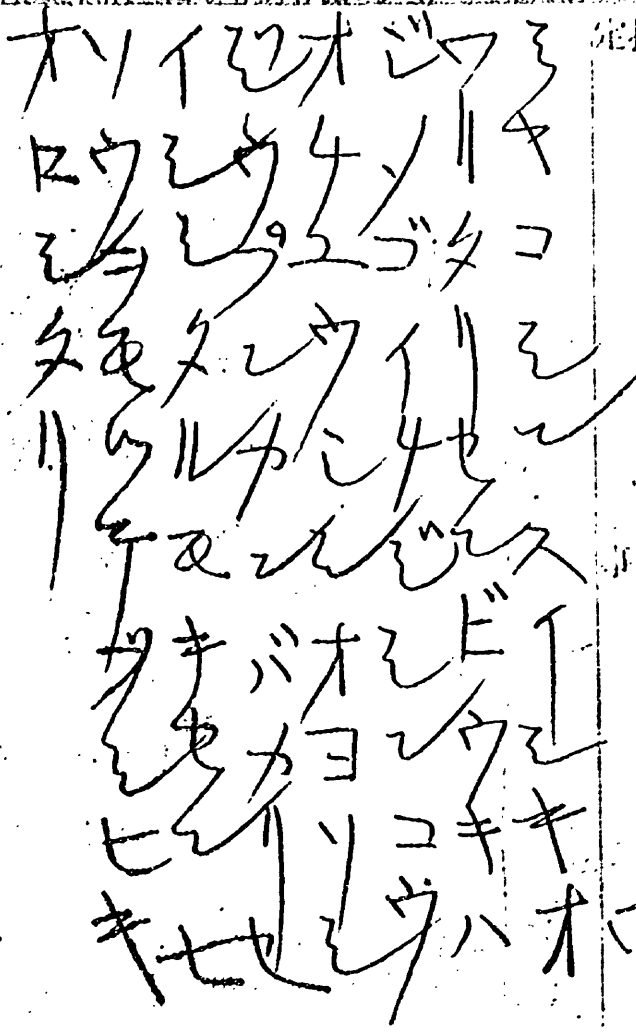
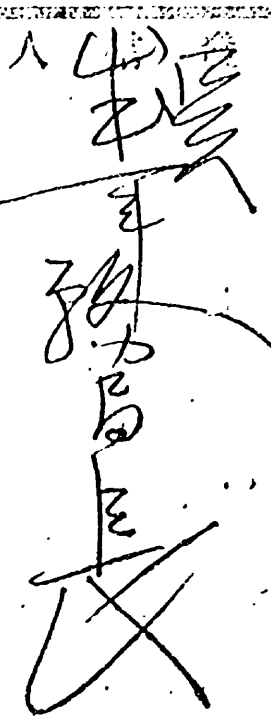
海軍次官 矢野



造船課長  
機務課長  
兵器課長



1817

局 印 番 日	着 局 第 分 字 分 日 號	發 局 報	受 信 人 
日本政府電報送達紙 着第 			報 

(行 印 日 號)

1818

軍務局

軍務局長代

英明第一二四三號

造船課

別冊調査及圖面抄取  
別冊調査及圖面抄取

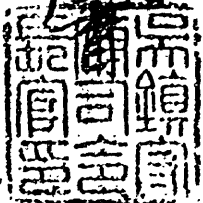
軍航官古進水ノ節一時進行中止  
之義報告

客年十月廿七日軍航官古進水ノ節一時  
進行中止シタル原因及狀況別冊調査  
ノ條々ノ基臺上進行ノ模標圖面相添  
此段報告仕伏

明治三十二年三月廿九日

吳鎮守府司令官長官男爵井上良敬

海軍大臣侯爵西郷從道殿



五九九号

1819  
1820

軍務局

機覽

五九号

中略

軍艦宮古進水ノ節一時進行中止  
之義報告

客年十月廿七日軍艦宮古進水ノ節一時  
進行中止シタル原因及狀況別件調書  
通リニ依テ船臺上進行ノ模倣圖面相添  
ハ此段報告仕テ

明治三十二年三月廿九日

吳鎮守府司令長官 廣野 爵 井上 良 敬



海軍大臣 侯爵 西 郷 道 敏

造船課

中尾

1819  
1820

軍令第四四九

軍令部長  
次長  
第一局

主事



淨寫

校合

發日

十月十日

年月日

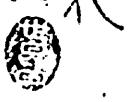
主務

立案者

大臣 次官



軍務局長



造兵課長  
軍需課長  
機關課長  
兵器課長

指令案

吳鎮第四四五一号軍艦官古艦名書  
體乃寸法、何認許ス  
明治三十二年十月十日

海軍

海防 四十一號

軍艦名書体及寸法、義、行、上、申

軍艦官古艦名書体及寸法別紙一面

通、相、定、ノ、度、条、法、認、許、相、成、度、艦

船造修試驗検査規則第五十三條

依、以、段、上、申、仕、矣、也

三月十一日

井上良毅



希向、義、高、家、納

出、殿

1822  
1823

海軍大臣侯爵西鄉從道殿

軍艦名書体及寸法義并上申

軍艦名古艦名書体及寸法別紙一面

通相定ノ度条法認許相成度艦

船造修試驗檢査規則第五十三條

依此段上申仕矣也

明治三十一年十一月一日

吳鎮守府司令長官田原清井上良毅



海軍大臣侯爵西鄉從道殿

1822  
1823